

令和6(2024)年度経常研究 デザイン資料を活用したトーションレースの試作開発

担当部所 : 栃木県産業技術センター 繊維技術支援センター

背景

トーションレースは、主に服飾付属用レースとして用いられ、デザインに関しては幾何学模様を基本とした柄が多い。このため、トーションレースのデザインに大柄を取り入れることで、デザインの幅を持たせ、付加価値を高める取組が重要となる。

そこで本研究では、当センターで保有しているデザイン資料を活用し、図柄からトーションレースの編成データとするまでの手順を確立することで、デザイン面からトーションレースの高付加価値化を目指す。



研究目標と結果

研究目標

- デザイン資料を活用して、図案からトーションレースの組織を起こすまでの手順を確立する。
- 具象的な組織柄のトーションレースを編成し、その生地を使用した見本帳及び試作品を作製する。

実施内容

(1) 図案の選定・編集

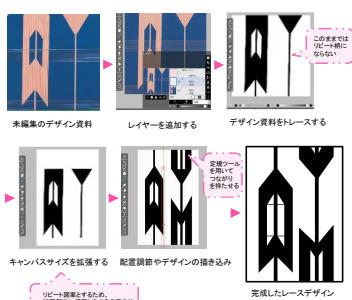
図案(具象柄等)
の選定

加工・編集



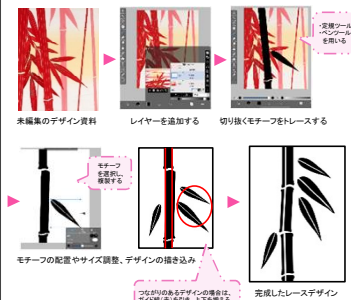
方法①

デザイン資料の図案をほぼそのまま活用する。



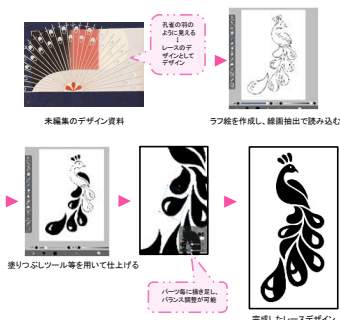
方法②

デザイン資料からモチーフを切り抜いて活用する。

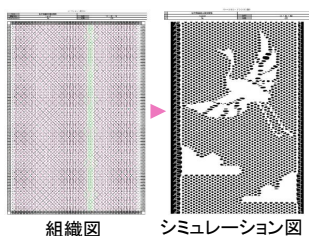


方法③

デザイン資料をデザインイメージとして活用する。



(2) 組織図の作成と糸の選定・張力の設定



糸
シルケット加工を施した綿糸
10番三子糸(織度)

張力(張力用スプリング)

芯糸 200g
バイアス糸 80g
耳(両端) 250g

(3) 生地の編成及び見本帳作製

トーションレース設計システムで作成した組織図データに基づき、6種類のレースの編成を行った。



まとめ

- デザイン資料からトーションレースの組織を起こす3つの手順を確立した。
- 6種類の具象柄のレースを編成し、見本帳と試作品を作製した。

ご来場の皆様へ

問い合わせ先: 栃木県産業技術センター 繊維技術支援センター TEL 0284(21)2138

- 県内中小企業の皆様がデザイン資料を活用される際の支援の幅が広がっています。
- トーションレースの新規デザインや新製品展開の際、ご相談や共同研究等で支援が可能です。

